

特別セッション

「日本の斜面对策技術の国際化の課題－海外と日本の違い」（斜面对策技術国際化委員会共催）

日本の斜面对策技術は斜面災害が多発する日本の長い歴史の中で構築されてきた技術です。その中には日本独自技術として発展してきた技術もあります。防災技術の海外展開が進められる中、2018年より斜面防災技術国際化委員会において日本の斜面防災技術の国際化の課題について研究活動を行ってきましたが、2023年度から斜面对策技術国際化委員会に改名して活動を継続しています。その活動を通じて、欧米などを含む海外では日本と異なる技術が使われていることがわかってきました。対策工の工種そのものが異なる場合もあれば、対策工の適用範囲が異なるものや設計方法が異なるものなど、さまざまな違いがあります。また、開発途上国においてもその国独自に発展してきた技術が存在し、その国の斜面对策に役立っています。本セッションではこのような違いを具体的に把握し、今後の取り組みについて議論したいと考えています。海外での研究や業務などの経験から、日本とは異なる海外の斜面对策技術に関するさまざまな発表を募集します。日本に留学している学生会員のみならず、皆さまの発表も歓迎します。

世話人 榎田充哉（斜面对策技術国際化委員会/国土防災技術）

上野雄一（斜面对策技術国際化委員会/日特建設）

岩佐直人（斜面对策技術国際化委員会/藤井基礎）